

花ちゃん・オ一君・モンタ博士のわくわくドキドキ国立てくてく

国立第七小学校 平成26年3月3日 NO.94



キンケハラナガツチバチ

Yくん 「あれ、あれ、あれ？ おや、おや、おや？ なんだ。」

Mくん 「どうしたんだよ。何かあったの。」

Yくん 「ねえねえ、あれは虫じゃないかな。」

Mくん 「どれどれ？どれだよ。」

Yくん 「朝礼台（ちょうれいだい）の下に、何か虫みたいなものがあるぞ。」

Mくん 「うん。じゃあ、見に行こうぜ。」

Yくん 「これ、ハチじゃないかな。」

Mくん 「おいら、ハチきらいだ。さされたことあるんだよな。おいら、いたくて
いたくて泣いちゃったぜ。」

Yくん 「でもさ、このハチ、死んでいるんじゃないかなあ。」

Mくん 「ちょっと動（うご）いているぜ。」
Yくん 「おいおい、それじゃ逃（に）げないように、石でかこってしまおうぜ。」
Mくん 「よしよし（にんまりしながら）。これでもう逃げないな。」
Yくん 「でもさ、何という名前のハチなのかな。」
Mくん 「うーん。おいらもわかんねえなあ。」
Yくん 「どうしようか。こまったなあ。」
Mくん 「あ！そうだ。あの人がいた！」
Yくん 「だれだよ。だれだよ？」
Mくん 「知らねえのかよ。モンタ博士がいるじゃんかよ。」
Yくん 「そうだ！そうだ！いたいた。」
Mくん 「よし！それじゃ、会いに行こう！」

ということで、YくんとMくんは、モンタ博士研究所に行ったとき・・・。

Yくん 「モンタ博士！」
Mくん 「モンタ博士！」
モンタ博士 「どうした？どうした？」
Yくん 「あのね、Mくんと遊んでいたら、第七小学校の校庭でハチみたいなものを見つけたんです。」
Mくん 「それで、何という名前のハチか知りたくて来ました。」
モンタ博士 「何！ハチ？もう出てきたのか。どれどれよく見せてごらん。ふーん。これはね、たぶんね、『キンケハラナガツチバチ』というツチバチの仲間だね。」
Yくん 「なんか長い名前だな。どうしてそんな名前なの。」
モンタ博士 「金色の毛があり、おなか（はら）が長いから、そういう名前になったのさ。」
Mくん 「ふーん。そうなんだ。なーるほど。」
モンタ博士 「そうだな。もうそろそろ『啓蟄』（けいちつ）だな。」
Yくん 「え！『げいじゅつ？』なんだそりゃ？」
Mくん 「え！『けがいくつ？』なんだそりゃ？」
モンタ博士 「ちがうよ。『啓蟄』（けいちつ）というのはね。」

お話は続く・・・